手術医療機器の５Ｓ
～業務の効率化を目指して～

嶋　浩人　大橋弘美　河村智子

要旨：手術室で取り扱う医療機器は多種多様であり，当院手術室においても手術件数の増加や医療技術の進歩に伴い，年々医療機器も増加している．しかし，医療機器の廃棄に関しての規則がなく，不必要になった医療機器の処分は進まないのが現状である．そのため，倉庫に入りきらなくなった医療機器が，通路にまで散乱するようになった．また，現在頻繁に使用されている機器と使用頻度の少ない機器が混在し，収納場所も決められていないため，必要な医療機器を探したり，出し入れするのに手間がかかり，業務の効率が悪かった．そこで手術室医療機器の５Ｓに取り組んだところ，不必要な機器の処分ができ，収納場所を決めたことで，環境の美化，業務の効率化を図る事ができた．

【はじめに】

医療技術の進歩に伴い，手術で使用される医療機器は日々めざましく進化している．当院の手術室においても手術件数の増加や，新しい術式の導入により，医療機器が増えている．しかし，旧タイプの医療機器が廃棄処分されることは少なく，倉庫に収まりきらなくなった機器が通路に散乱している現状があった（図１）．収納場所が決められていない為，必要な機器を探すのに時間がかかり，業務に支障をきたしていた（図２）．今回業務の効率化を目指し，５Ｓに取り組んだので，その結果を報告する．

【方　　法】

実施期間　平成28年６月～平成29年２月

実施方法

①処分対象の機器を洗い出し，医師に確認の上，廃棄

②医療機器の廃棄基準を作成

③収納場所を確保し，医療機器の定位置の取り決め

④手術室スタッフにアンケートを実施し，取り組みの効果を評価

図１

図２

岐阜赤十字病院　手術室

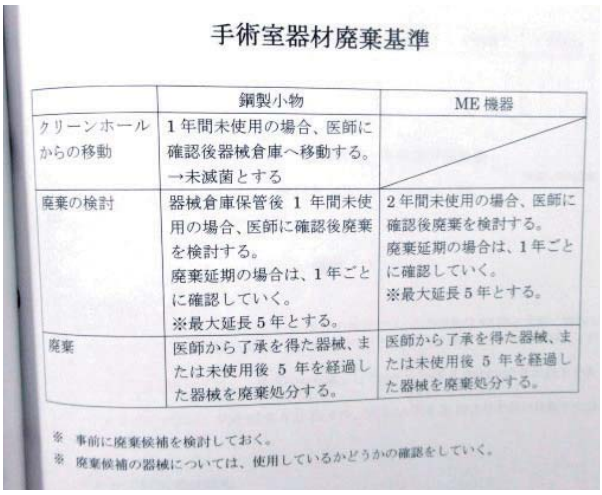
【結　　果】

医療機器に対して廃棄基準（図３）を設け，医師に確認しながら不必要な機器を選定し，約200個の機器を廃棄処分した（図４）．機器を処分することで収納スペースの確保ができた．次に，収納場所を明確化するためにテープで床を仕切り，定位置を決めた（図５）．その際，取り出しやすいように使用頻度の多い機器を手前に配置した．奥に配置した機器は取り出しやすいようにスペースにゆとりをもたせた．また，誰でも定位置に戻せるように機器の写真を床に貼付し，収納場所の配置図も作成した（図６，図７）．取り組み後のスタッフのアンケート結果からは「通路の物が少なくなり，スッキリした」「機器が探しやすく，取り出しやすくなった」という意見が聞かれた（図８，９）．

【考　　察】

手術室では新たな術式の導入に伴い，新しい機器を購入したり，今まで使用していた機器が使用されなくなることがある．しかし，それらの使用されなくなった機器を捨てようとした場合，関連する診療科の医師の許可が必要となる．いつか使える，どこかで役立つ，といった様々な理由から未使用の機器や使用頻度の少ない機器が廃棄されず，倉庫の奥に保管されていくことで収納スペースがなくなり廊下に散乱する状況になったと考える．廃棄基準を設けたことでその基準に則り，不必要な機器を選定する事ができるようになった．それにより，医師への確認がスムーズになり，適切かつ迅速に廃棄処分を行うことが可能になった．

機械倉庫内に収納する際，特に定置・定量を決めておらず，使用頻度も考慮せずに収納していたことが，準備に時間を要する原因になっていた．本当に必要な医療機器をセット化し，使用頻度や使用する部屋に応じて配置することで，準備に要する労力を削減できたと考える．また，収納場所の配置図を作成し，床にマーキングと機器の写真を貼付したことで，誰でも定位置へ戻すことが出来るようになった．アンケート結



手術室器材廃棄基準

	鋼製小物	ME 機器
クリーンホールからの移動	1年間未使用の場合、医師に確認後器械倉庫へ移動する。→未滅菌とする	
廃棄の検討	器械倉庫保管後 1 年間未使用の場合、医師に確認後廃棄を検討する。廃棄延期の場合は、1年ごとに確認していく。※最大延長5年とする。	2年間未使用の場合、医師に確認後廃棄を検討する。廃棄延期の場合は、1年ごとに確認していく。※最大延長5年とする。
廃棄	医師から了承を得た器械、または未使用後 5 年を経過した器械を廃棄処分する。	医師から了承を得た器械、または未使用後 5 年を経過した器械を廃棄処分する。

※　事前に廃棄候補を検討しておく。
※　廃棄候補の器械については、使用しているかどうかの確認をしていく。

図３

図４

図５

果からも「廊下がスッキリした」「機器が探しやすく，取り出しやすくなった」という意見が聞かれ，手術室の医療機器の管理に５Ｓ活動は有効であり，手術室環境の美化，業務の効率化という成果を得られたと考える．

【おわりに】

今回，手術室の医療機器の５Ｓに取り組み，医療機器が整理整頓され，手術室環境の美化が進んだだけでなく，業務の効率化が図れた．しかし，今後も医療機器が増減することが予想されるので，定期的に配置を見直していく必要がある．また，時間の経過と共にスタッフの５Ｓに対する意識が薄れることも懸念されるため，スタッフへの意識づけも課題となる．安全で効

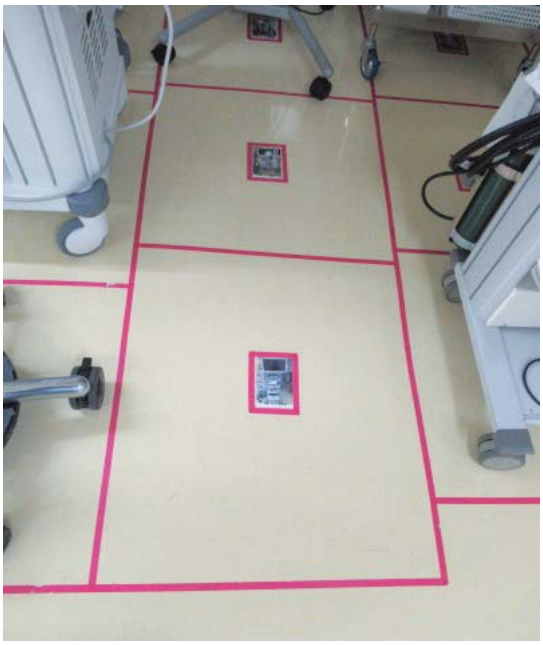


図６

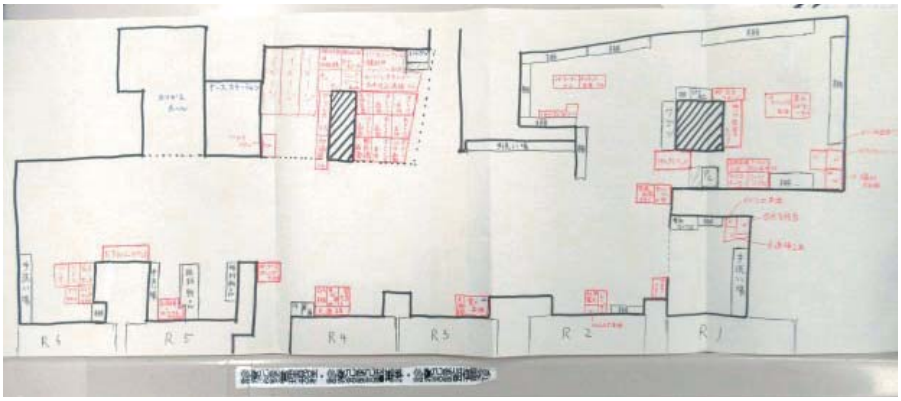


図７

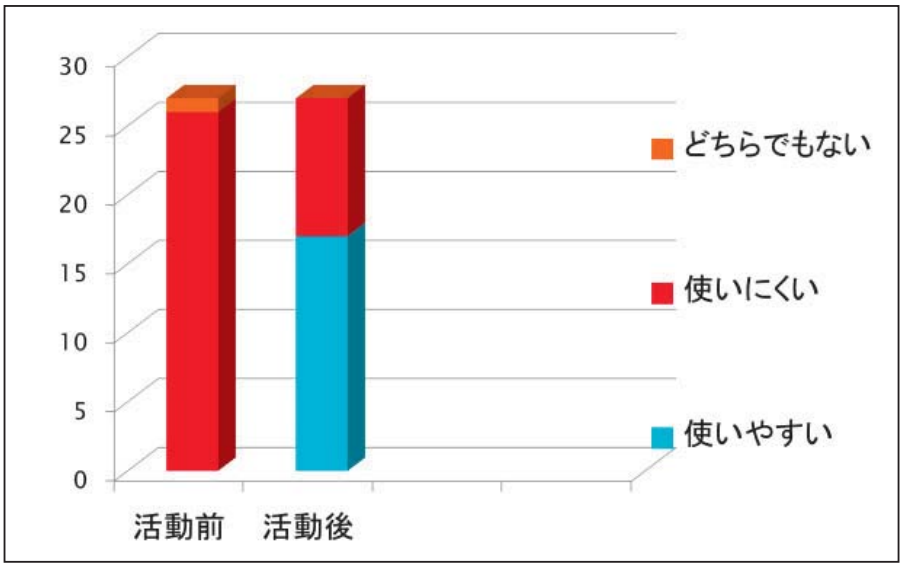


図８

率的な手術室運営にむけて，今後も継続的に５Ｓに取り組みたい．

参考文献

高原昭男：ミス・事故をなくす医療現場の５Ｓ－ものの５Ｓから業務の５Ｓまで－，JIPMソリューション，東京，2011

図 9